

## ランチョンセミナーのご案内

---

ランチョンセミナーの整理券を下記の時間帯に配布いたします。  
なお、数に限りがございますので、無くなり次第終了とさせていただきますのでご了承ください。

配布場所：地下1階 総合受付横

配布時間：22日(日)～24日(火) 8時～11時(無くなり次第終了)

ランチョンセミナー1 共催：インターシステムズジャパン株式会社

日時：11月22日(日) 12時20分～13時20分

会場：B会場(ダリア2)

テーマ：『地域連携、国民EHR構築に向けた各国の取り組みに学ぶ  
Connected Healthcareの実現』

司会：植松 裕史(インターシステムズジャパン株式会社代表取締役)

演者：Kerry Stratton (InterSystems Corporation ヘルスケア担当取締役)

インターシステムズは、医療ITの基盤技術を提供する世界的リーダです。米国RHIO、スウェーデンの国民電子医療記録、英国NHSインテグレーションの国家プロジェクトなどをはじめとする、各国での多くの医療連携プロジェクトを支援、協力をしています。こうした先進の取り組みや世界の動向をご紹介します。その成功要因や失敗要因を考察し、医療の安全、質向上と効率化を実現するためのConnected Healthcare構築に向けての留意すべき点や成功の秘訣につき議論します。

ランチョンセミナー2 共催：アライドテレシス株式会社

日時：11月22日(日) 12時20分～13時20分

会場：D会場(コスモス2)

テーマ：『初心者向け病院ネットワークの基礎知識(続・続)  
～病院機能評価V6を視野に～』

演者：小田 直之(上級執行役員 ビジネスエンジニアリング事業部長)

病院では、検査から会計まで複数のシステムが稼働しています。  
これらのシステムは、IPプロトコルにより同一のネットワーク上ですべて運用可能になり、経済性だけでなく、システム間の連携により利便性も大きく向上しました。  
反面、ネットワーク停止は病院運営自体に関わる問題となり、安定稼働が必須です。  
さらに電子カルテ等医療情報保護のために十全なセキュリティ対策と運用が重要です。  
また、IT化による医療の質と安全性向上のためにそれら情報システムの管理体制の確立、システム管理のための人員配置が必要となっています。  
本セミナーは前々年・前年とご好評を頂きました初心者向け病院ネットワークの基礎知識「～メーカーの言いなりになっていませんか?～」と、続編：初心者向け病院ネットワークの基礎知識「あなたの病院は大丈夫?」の続・続編として、「止めないネットワーク」、「安全で安心なネットワーク」及び「運用管理」の3つのキーワードで、病院ネットワーク構築・運用のポイントを平易にご説明します。  
前提知識は不要です。  
前回未受講でもわかりやすく、前回受講者は知識をより深めて頂ける内容です。  
無線LANとHISアプリとの連携にも触れます。  
また、一部ビデオを用いて解説することで、さらにご理解頂けるよう努めました。

ランチョンセミナー3 共催：株式会社エーピーシー・ジャパン

日時：11月22日(日) 12時20分～13時20分

会場：E会場(ラン1)

テーマ：『医療/院内情報システムにおけるインフラ整備の重要性』

司会：有本 一(株式会社エーピーシー・ジャパン  
ビジネスディベロップメント部ディレクター)

演者：1. 花田 英輔(島根大学医学部附属病院准教授 医療情報部副部長)  
2. 有本 一(株式会社エーピーシー・ジャパン  
ビジネスディベロップメント部ディレクター)  
3. 原 衡和(社会医療法人財団慈泉会 相澤病院 情報システム部)

演題名：1. 医療 IT システム安定稼働のための物理インフラ整備  
2. 医療情報システムにおける電源保護対策の重要性  
3. 事例紹介：地域医療連携の取組みと  
IT システムを支える物理インフラ保護対策

ランチョンセミナー4 共催：(財)医療情報システム開発センター

日時：11月22日(日) 12時20分～13時20分

会場：F会場(ラン2)

テーマ：『ITを活用した看護師業務～効率的・実用的・看護記録の試み～』

司会：遠藤 明(財団法人医療情報システム開発センター理事長)

演者：1. 望月 聡一郎(医政局総務課医療安全推進室主査)  
2. 松月みどり(財団法人田附興風会医学研究所北野病院看護部長)  
3. 駒崎 俊剛(東京保健医療大学医療情報学科助教)

医療情報システムのIT化では用語の標準化は重要であり、これから電子カルテの導入やIT化をすすめていく医療機関においては、これまで使用していた看護用語を整理して、自施設での用語を標準化していく作業に膨大な時間や労力、費用を必要とします。

看護師の多忙な業務の中での、効率的、実用的、便利簡単な看護記録を財団法人医療情報システム開発センターは東京保健医療大学と共同開発を行ったので概要について説明する。特徴としては、標準化かつ構造化された看護用語集である「看護実践用語標準マスター」を応用、

患者が入院してから退院するまでの一連の流れを、患者の状態の経過に着目して疾患ごとにフロー図を作成し可視化、DPC上位の疾患についてセット化し、急性期に頻度の高い128疾患、パスとの相性がよく展開が簡単で看護計画との対応で看護の質を保証、看護計画として必要な観察項目と介入項目をあらかじめセットなどを備えたものである。

なお、看護診断の考えは入っていない。

ランチョンセミナー5 共催：富士ゼロックス株式会社

日時：11月22日(日) 12時20分～13時20分

会場：G会場(リハーサル室)

テーマ：『Lifelongの電子診療録管理方法～DACSによるソリューション～』

司会：山口 功(富士ゼロックス株式会社ソリューション本部医療情報開発推進室)

演者：1. 松村 泰志(大阪大学医学部附属病院医療情報部)  
2. 菅谷 秀一(富士ゼロックス(株)ソリューション本部医療情報開発推進室)

「電子カルテシステムによる診療録管理が普及しつつある。長期に渡り診療を継続する患者は多く、診療録は、患者の生涯にわたるLifelongの管理が求められる。一方、電子カルテシステ

ムは、5～6年で更新する必要がある。システム更新の際には、担当ベンダーが変わることがある。特に大規模病院では、複数のシステムで構成されることが多く、いずれかのシステムの担当ベンダーが変わる可能性は高い。蓄積した患者データについて、システム提供ベンダーが変わっても、見読性を維持することは容易なことではない。

この問題を解決するシステムとして、DACS (Document Archiving and Communication System) を提唱したい。本セミナーでは、DACS の基本概念と、大阪大学医学部附属病院における具体的実現事例について紹介する。DACS は、診療録情報をデータ単位ではなく、文書単位で管理することを基本とする診療録情報の管理システムである。文書の本体を PDF や DocuWorks などのフリーソフトで読める形に変換して保存し、文書のメタ情報を XML で統合的に集めて管理する。この XML に文書内の重要データも含める。収集する文書は、電子カルテシステム、部門システムから生成される文書に加え、スキャン取込み文書、仮想プリンター技術で収集した文書も含み、病院内で発生する全ての診療用文書が対象となる。この管理方法では、文書本体の見読性が長期に渡り保障されること、メタ情報の構造は単純であり、DACS 提供ベンダーが変わっても、データ移行が容易であることから、生涯に渡る見読性、真正性が確保できると考える。加えて、文書を統合的に管理することにより、文書の統合的 Viewer が可能となり、患者の病歴把握を容易とする。更に、システム間のデータ共有、データの二次利用も可能となる。DACS により、安心してペーパーレス電子カルテ運用に移行することができる。」

#### ランチョンセミナー6

共催：GE ヘルスケアジャパン株式会社

日時：11月23日(月) 12時20分～13時20分

会場：B会場(ダリア2)

テーマ：医療 IT 化の活用事例

司会：森川 富昭(徳島大学医学部・歯学部附属病院病院情報センター  
センター部長 病院教授)

演者1：Dr. Brandon Savage (Chief Medical Officer  
GE Healthcare Integrated IT Solutions)

演者2：伊藤 豊(北海道大学病院 医療情報企画部)

演題名：1. 欧米での GE の eHealth と Intermountain の取組みの紹介  
『High Performance Medicine: A Necessary Cure for Healthcare  
Systems Ills 』

欧米の政府や医療機関が情報通信技術を活用し、高品位医療システムの設備投資や構築を通して最大限の効果をもたらす方法について紹介する。例えば医療システムとの接続に関する方法や方策、さらには適切な構造や機能を備えたシステムをもとに実践的な知見を提供する方法や方策についても紹介する。

#### 2. 北大病院におけるフィルムレス環境

～ 歯科口腔領域への展開と画像情報の活用法について～

北海道大学病院においては、2008年2月 PACS・RIS を含めた病院情報システムの更新を行った。

これに伴い、前システムにて未対応であった歯科領域における口内撮影法関連画像についてもフィルムレス化をはかることとなり、全病院的なフィルムレス PACS 運用が達成された。今回、本院における PACS の紹介として、特に歯科口腔領域への展開のため開発・導入を行った口内法専用ビューワー(通称：デンタルビューワー)関連の機能や、その他院内カンファレンスや教育・研究活動に向けた画像活用に関する機能等について報告を行う。

#### ランチョンセミナー7

共催：富士フイルムメディカル株式会社

日時：11月23日(月) 12時20分～13時20分

会場：D会場(コスモス2)

演者：関塚 永一(独立行政法人国立病院機構埼玉病院)

演題名：新たな地域医療連携の発展に向けて  
～進化するネットワーク医用サービスシステム「C@Rna」の構築～

ランチョンセミナー8 共催：マイクロソフト株式会社

日時：11月23日(月) 12時20分～13時20分

会場：E会場(ラン1)

演者：山野辺 裕二(成育医療センター医療情報室室長)

演題名：医療機関における UC (Unified Communication) 入門

ランチョンセミナー9 共催：インテル株式会社

日時：11月23日(月) 12時20分～13時20分

会場：G会場(リハーサル室)

司会：風間 博明(インテル株式会社 事業開発本部デジタルヘルス事業部)

演者：牧 真一郎(インテル株式会社 技術本部ソフトウェア&ソリューションズ  
統括部アプリケーション・エンジニア)

演題名：インテル vPro テクノロジーによる効率的なクライアント PC の運用管理

ランチョンセミナー10 共催：マイクロソフト株式会社

日時：11月24日(火) 12時20分～13時20分

会場：D会場(コスモス2)

演者：竹内 将(福井県済生会病院 経営企画課)

演題名：福井県済生会病院における Sharepoint Server 構築、活用事例

ランチョンセミナー11 共催：(財)医療情報システム開発センター

日時：11月24日(火) 12時20分～13時20分

会場：F会場(ラン2)

テーマ：『電子カルテで活用できる医用波形記述の標準化  
- ISO で採用された“MFER” - 』

司会：山内 一信 (MFER委員会委員長/藤田保健衛生大学)

山田 恒夫 (財団法人医療情報システム開発センター)

演者：1. 平井 正明 (日本光電工業㈱、ISO/TC215/WG7日本主査・エキスパート)  
2. 田村 光司 (㈱メディカルストレージ、東京女子医科大学非常勤講師)  
3. 小林 聡 (フクダ電子㈱、MFER委員会委員)

演題名：1. 医用波形記述規約“MFER”の意義 - 心電図から医用波形全般への展開 -  
2. MFER早わかり - ホームページでのMFER体験方法も紹介 -  
3. MFERの病院での利用イメージと商品化に向けて

医療機関における診療記録など医療情報は、紙への記述や保管から電子化した情報での活用へと変貌をとげつつある。例えば電子カルテであれば、その情報要素は文字情報、画像情報、そして波形情報であるが、前2者についてはHL7やDICOMといった標準規格が作成され、活用されている。しかし、心電図や脳波、呼吸波形など医用波形についてはほとんど標準化が進んでおらず、これまでの電子カルテの多くは、心電図等波形情報を単に画像として記録してい

る。画像として記録された波形情報は電子情報としての特性である情報の再利用性を失っているが、これに対して MFER は原医用波形データを損失なく記述できる。

MFER 委員会ではこれまで医用波形に特化した MFER 規約を作成し、提案してきたが、現在では ISO でも検討され、既に基本規約は ISO/TS 11073-92001 として発行されている。

本セミナーでは、この MFER の意義や概略説明のほか、具体的な病院での利用イメージなども紹介する。

MFER のホームページでは、MFER の概要解説のほか、MFER ビューワーのサンプルソフトの公開なども行っている。

<http://ecg.heart.or.jp/Jp/Index.htm>

当日は内容が多少変更になる場合がありますことご了承ください

22日 一折六子飯弁当



23日 アンデルセンサンドイッチ



24日 むさし9色弁当

